

配送方法を工夫するといった計画的・効率的な流通システムの構築をめざす。

なお同研究は、農研機構 生物系特定産業技術研究支援センターの公募事業「23年度 戦略的スマート農業技術の開発・改良事業」に採択されている。

品質情報を非破壊で検出するAI選果機を開発し、収集したデータと流通のデータを連携させることにより、最適な栽培・流通システムの構築に取り組む。

2024年4月からは、共同開発したAI選果機を、カゴメブランドの生鮮トマトを栽培するいわき小名浜菜園のトマト集荷場に実装。「ラウンドレッド」「高リコピントマト」などの中玉トマトを対象に、果実ひとつひとつの外部・内部品質を非破壊検査し、傷や色みなどのデータを収集した。9月時点で、20項目、400万点を超えるデータが蓄積された。

今年4月からは、AI選果機で収集したデータと既存の栽培・流通に関するデータを双方向に連携させて、解析を行う予定。これにより、栽培段階での不良果発生率を低減する栽培手法の開発・実証を行う。また、品質不良の発生予測モデルを開発し、品質に合わせて

廃棄ロス低減へ

栽培・流通システム構築

生鮮トマト

カゴメらのコンソーシアムで

カゴメ、選果システム
の製造販売を手掛けるシ
ブヤ精機、農研機構、農

る。

業DXプラットフォーム
を提供するAGRI S
MILE、京都大学、い
わき小名浜菜園は、コン
ソーシアムを形成し、生
鮮トマトの品質不良によ
る廃棄ロス低減をめざし

て研究・実証を行ってい

収穫時には正常品とし
て出荷されたにもかかわらず、流通過程で品質が
劣化し、消費者の手に届く前に廃棄せざるを得
ない「潜在的な品質不
良」の課題を解決するこ
とが目的。生鮮トマトの